

「西條」

令和6年度 第6号

自分の好きなことを強みに

校長 荒屋 誠

今年の修学旅行で3年生と訪れたU S J（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）は、多くの人であふれていました。今では信じられないかもしれませんが、2010年には、年間に訪れる客の数は約700万人まで減少し、このままでは倒産確実といわれていたのです。そんなU S Jを年間約1500万人が来場するテーマパークへと再生させたのが、森岡 毅さんという人物です。

森岡さんは、P & Gという会社で、商品が売れるようにするマーケティングの仕事をしていました。倒産寸前だったU S Jを立て直すためにに行った主なことは、次の3つです。

- ①客層を広げる工夫：映画だけにこだわらず、ゲームやアニメのブランドを取り入れたり、「ユニバーサル・ワンダーランド」を作ったりしたこと。
- ②新しい施設を作らずに来場者を増やす工夫：「ハロウィーン・ホラー・ナイト」等の催しを行ったこと。
- ③来場者数をさらに増やす工夫：ハリー・ポッターの新エリアを作ったこと。

これらは、マーケティングの手法をもとにU S Jの課題や強みを分析し、どこに力を入れるかを明確にして実践されました。その結果、これまでとは違って、子供や家族連れにまで客層が広がりました。また、「ハロウィーン・ホラー・ナイト」を実施したことで、9月から11月の比較的来場者が少ない時期の活気を取り戻しました。さらに、来場者増加による利益をもとにハリー・ポッターの新エリアを作り、日本国内ばかりでなくアジア諸国からの来場者も増やしました。こうした工夫が、倒産確実だったU S Jを再生させたのです。



森岡さんは、P & Gの時代から、時には苦しみながらも、自分の強みである数学的な発想を生かした分析力と貪欲に学ぶ姿勢で仕事に取り組み、マーケティングの力を磨き高めました。森岡さんは著書の中で、「人間は、みんな違って、極めて不平等であるが、自分のユニークな特徴さえ認識できたら、一人一人が特別の価値を生む可能性がある」そのためには、「自分の強みをどれだけ早く見付けて、武器として認識し、それを磨いて伸ばしていくかが大切である」と語っています。

西條中学校の皆さんは自分の好きなことや得意なことがありますか。「問題を解くのが好き」「人の世話をすることが好き」「誰とでも話すことが好き」「新しいことに挑戦することが好き」などいろいろあると思います。本当に好きなことであれば、人は努力を重ねることができるはずですが。この社会で、努力したことを結果につなげることができたプロと呼ばれる人々は、もれなく、その道で努力を積み重ねることができた人であって、努力できる好きなことを見付けられた「発見の成功者」と言えます。ぜひ、西條中学校の皆さんも、自分が努力できる好きなことを見付けてほしいと思います。

